

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第5回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会
開 催 日 時	平成22年10月4日（月）午後6時30分～午後8時25分
開 催 場 所	中部地区会館407会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）榎本茂子、小川榮子、栗原誠、関根明美、高橋眞澄、東宮玲子、森林育代、渡辺真紀子（欠席者）足立幸夫、重野吉幸（事務局）地域振興課主査、地域振興課主事
報 告 事 項	1 第4回男女共同参画推進市民委員会の会議録について 2 情報誌「YOU・I」第22号の発行について 3 その他
議 題	1 第11回YOU・Iフォーラムの開催について 2 情報誌「YOU・I」第23号の編集について 3 女性センター視察について 4 第5回村山デエダラまつり出展について 5 男女共同参画推進状況調査について 6 その他
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	第5回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会 議題1 第11回YOU・Iフォーラムの開催について ・ 開催形式はトークショーと質疑応答にする。 ・ 男性参加を促進するため、広報手段を検討する。 議題2 情報誌「YOU・I」第23号の編集について ・ 表紙は、近所のイクメン紹介とする。 ・ 特集は、YOU・Iフォーラムの講師の活動を掲載する。 ・ 裏表紙は、公開講座アンケート結果、デエダラまつりの開催結果を掲載する。 議題3 女性センター視察について ・ 東久留米市男女平等推進センターには文書で質問事項を送付し、文書で回答をもらい参考にする。 ・ 視察候補地は、清瀬市男女共同参画センターとする。日程は、平成23年1月とし、事務局で調整する。 議題4 第5回村山デエダラまつり出展について ・ 本日欠席委員の予定を確認し、10月30日（土）、31日（日）の担当委員を事務局で調整し決定する。 議題5 男女共同参画推進状況調査について ・ 推進状況調査結果を参考に、次回会議までに各自意見を持ち寄る。 議題6 その他 ・ 第6回会議 11月8日（月）午後6時30分から開催する。 ・ 第7回会議 12月13日（月）午後6時30分から開催する。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） （発信者） ○印：委員 ●印：事務局	第5回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会 議題1 第11回YOU・Iフォーラムの開催について ● 事務局案として、開催形式について説明。また、テーマについて講師からの提示をもとに説明。 ○ 講演時間はどのくらいを予定しているのか。 ● 2人で90分の講演を予定している。 ○ それぞれが話すより、トークショー形式がいいと思う。また、可能であれば、市民の方を交えたパネルディスカッションもいいのではない

か。安藤さんのパパ's 絵本プロジェクトに関連させ、読み聞かせのような要素を取り入れてもおもしろい。90分という限られた時間の中で、どのくらい講演に時間を取るか。フォーラムを全体的に盛り上げるという意味で、図書館のおはなし会と協力したり、本屋の絵本コーナーでも宣伝をしたらどうか。

- 例えば本屋で告知をしてもらうことは可能なのか。
- ポスターを作成し、本屋に貼ってもらうようお願いすることは可能だと思う。
- 集客のある大きい本屋にポスターを貼ってもらえれば、いい宣伝になるのではないかと思う。
- 保育園や幼稚園、PTA、学校にも声をかけたほうがいい。読書活動に熱心な学校も多い。
- 絵本に関連させるなら、市内で活動している団体に声をかけ、読み聞かせをしたらどうか。
- 何をメインに持っていくのか。育児のことなのか、男性の育児参加を目的にするのか。
- 会場が市民会館小ホールであることを考えると、絵本の読み聞かせを実際にするのは難しいかもしれない。雰囲気だけ味わえたらいいのではないか。
- 例えば第2部として、市内で活動している父親に上がってもらって、ディスカッションをしたらどうか。
- 時間的に2部構成は厳しい。安藤さんと渥美さんの講演に時間を使った方がいいと思うがどうか。
- 安藤さんに本を読んでもらってもいいのではないか。
- 例えばオープニングに短い本を読んでもらうのはどうか。
- そうすると、イクメンのテーマにつながって入りやすい。
- 出だしに活動紹介の意味で本を読んでもらい、イクメンについての講演をしてもらう。別々の講演かトークショーどちらがいいか。
- 2人一緒のトークショーがいいと思う。
- 渥美さんにはワーク・ライフ・バランスの話を入れてもらいたい。育児だけのことではなく、どうしてワーク・ライフ・バランスが必要なのかという点からも話をしてもらいたい。
- 参加する人の年齢によって違ってくるのではないか。
- 来てもらいたいのは30代から40代の子育て世代の方である。
- 広報に工夫しなければならない。
- 親世代に通ずる話をしてもらえばいいのではないか。上司の理解が得られないときに、介護の話をするということがある。テーマはイクメンだが、ワーク・ライフ・バランスも兼ねて介護の話もしてもらえばいいのではないか。
- 参加者は60歳代と決めつけるのではなく、若い世代の参加を促進することも委員会の役目だと思うので、広報に力を入れるべきである。
- デエダラまつりでもPRに力を入れるべきである。
- 簡単なチラシを作り、配布したらどうか。
- 今年度のフォーラムを開催するに当たり、どんなことを誰に伝えたいのかを明確にするべきである。対象が分からなければ、内容を決められない。今回の目的の一つに、男性に聞いてもらいたいということがあると思う。男性は、図書館や本屋にはなかなか足を運ばない。幼稚園や保育園の母親に配布し、母親から父親の参加を促すようにしないと動員は大変である。何か軸を作らなければ、反省材料も残らない。いいフォーラムを開催しているのだから、毎年発展し、「このフォーラムはいいか

ら絶対行ったほうがいい」というのが口コミで広がるくらいが理想的である。

- 男性を家庭の中に取りこもうという手段の一つとして、今回テーマが「イクメン」になったと思う。
- 今回のテーマをイクメンと決めたとき、子育て世代の男性をターゲットにした。そこに、少しワーク・ライフ・バランスの要素もからめれば良いと思う。
- ターゲットである子育て世代の男性の目が行くところで広報活動をする。
- フォーラムは託児もあるので、家族でも来られると思う。
- 青年会議所に声をかけたら、年代的にはいいのではないか。
- 青年会議所や商工会青年部に声をかけることは可能である。
- 広報手段はこれから更に検討してほしい。

議題2 情報誌「YOU・I」第23号の編集について

- 平成22年12月1日発行予定で、23号担当委員を中心にお願いする。
- 8月30日に実施した男女共同参画公開講座アンケート結果を載せることになっていたと思う。
- 12月発行予定なので、フォーラムの告知も載せてもらいたい。また、22号の告知を踏まえ、デエダラまつりの結果を載せたらどうか。
- コラムという形で、近所のイクメンを1人載せたいと考えている。
- 身近な人が載っていると、読者の手の取り方が違うと思うので、毎月近所のイクメンを紹介したい。
- 表紙にイクメン紹介を載せてもいいと思う。
- 裏表紙は、フォーラムのPRやデエダラまつりの報告になると思う。
- 報告ばかりではなく、目玉となる特集があったほうがいい。
- フォーラム特集として組んでもいいと思う。講師の安藤さん、渥美さんの活動等を交え、紹介していく。
- 先日ボランティアセンターで行われた広報紙の講座を受けての報告をする。広報紙は組織や団体の顔である。広報活動は、組織運営能力の一つであり、良い点は、活動の活性化、組織の中での情報の共有化ができる。また、会員同士の信頼関係や一体感ができ、活動の理念と方向性、将来像などの問い直しにつながり、メンバーの意欲が向上する。

組織の外へ広報するという点では、情報交換や不特定多数の人へメッセージを送ることで、広く多くの人に活動を認知してもらい、理解と信頼を得る、会員の増加、人材の確保、地域や地域に住む人たちとのコミュニケーションのツールとして効果がある。広報ツールとして、地域の情報誌、新聞、テレビ、ウェブなどがあり、広報メディアが多様化している。これらは、単独で使用するものではなく、組み合わせて使用し、多方面から広報活動をするのに役立つ。

リーフレットとポスターは異なる。リーフレットは読んでもらうもの、ポスターは見てもらうもの、それぞれの媒体の違いをはっきり理解して作ることが大切である。

リリースとして、自分たちで情報誌を作るだけでなく、マスコミの力を利用して広報をする。この場合、マスコミの客観的評価に価値がある。第三者の目で評価してもらい、内容が見え、広報の価値が上がる。この講座に参加し、リリースという方法があることを学んだ。自分たちだけではなく、いろいろな力を借りて広報活動をしていくというのは大切だと思った。

- 結局は、情報誌については内容が重要であるということを学んだ。
- この講座の内容を「YOU・I」第23号に生かしていきたい。

議題3 女性センター視察について

- 前回会議で東久留米市男女平等推進センターと決定したが、先方に連絡したところ、センターもあまり広くなく、質問の内容によっては文書での回答で協力したいとのことだったため、視察は別の候補地を検討し、東久留米市には文書で回答してもらいたい。

- 西東京市はどうか。
- 昨年度に行ったばかりである。
- 清瀬市男女共同参画センターはどうか。
- 清瀬市はアイレックサポーター制度がある。本市の男女共同参画センターは指定管理者が運営をしているが、現状活動も厳しいため、市民のサポーターグループを作り、運営のサポートをしてもらえたらいいのではないかと考え、清瀬市での活動を聞き、参考にできたらと事務局で考えている。
- 清瀬市は視察を受け入れているのか。
- 平成17年に視察に行った経緯もあり、受入れ体制はあると思う。男女共同参画センターも市民活動からできたという設立の経緯がある。
- 指定管理者で運営しているのか。
- 市の直営施設である。
- 施設を見ることより、良い活動を知ることが目的だと思う。
- 清瀬市男女共同参画センターに決定していいか。

－異議なし－

- 予定していた11月に行くことは難しいと思うので、来年1月に行けたらと考えている。
- 東久留米市男女平等推進センターに文書で回答してもらった質問内容について意見をいただきたい。
- パパクラブの活動について聞きたい。
- センター運営で、うまくいっている点、困難な点について知りたい。
- 広報活動についても参考にしたい。情報誌以外の啓蒙活動は何をしているのか。
- センターの利用状況はどうなっているか。
- センターの位置付けについて知りたい。講座の計画等はどうしているのか。
- 本日出た意見をまとめ、東久留米市に質問事項を送付したいと思う。

議題4 第5回村山デエダラまつり出展について

- 資料に基づき、当日の出展場所を説明。10月30日（土）については、児童虐待防止のPRのため、子ども家庭支援センターに一部場所を提供する。

- 10月30日（土）、31日（日）で担当委員を決めたい。

－調整－

- 本日欠席委員もいるので、事務局で調整してもらいたい。
- 調整後、各委員に連絡をする。

議題5 男女共同参画推進状況調査について

- 推進状況調査結果を見て、次回会議に意見を出してもらいたい。

- 数字の結果ではなく、主観的な評価なのか。

- 所管課の自己評価である。その評価の根拠も掲載してある。男女共同

